

人として

流山市立おおぐろの森中学校 三年

ひかわ
陽川 ハンナ

「中国人は中国に帰れ！」

これは私が幼稚園の年長の時にクラスメイトに言われた言葉です。私は父の仕事の都合で二歳から五歳まで中国の上海に住んでいました。また、親戚の多くがアメリカやオーストラリア、韓国など海外に多く住んでいたため、幼いころからいろいろな場所を旅した記憶があります。それらはすべて刺激的で唯一無二の体験だったと思っています。私は幼稚園の年長の時に日本に帰ってきました。幼稚園の友達とはすぐに仲良くなり、みんな私のことについてたくさん質問してくれて、私は自分が中国から来たことを話しました。それからしばらくしたときに、私は一人の男の子と喧嘩になってしまいました。その時彼は私に「中国人は中国に帰れ！」と言いました。私はそれがあまりにショックで涙をこらえきれずに泣いてしまいました。私は中国人ではありませんし、その差別的な言葉よりも自分が自分ではなく、人種というくくりで

扱われたことが悲しかったのです。

今思えば私たちはまだ幼く、彼も怒りに任せてそう言ってしまったのかも知れません。それでも私はその言葉を十年たった今でも忘れることができません。それから小学校に上がった後も私は本当に親しい人にしか自分のことを話さないようになりました。小学校中学年になるとだんだん国際関係などについてわかるようになってきます。するとよく国際問題などでの中国人を頭ごなしに非難するような会話が耳に入るようになってきます。私はその話を聞いていつも疑問に思っていました。歴史上の問題から日本と中国の関係がよくないことや、これが原因で起こる暴動などについては理解していましたが、国民間にも摩擦が生じていることは理解していませんでした。しかし、私が中国で関わってきた人は絶対に彼らが非難するような人間ばかりではありませんでした。親切に接してくれた人、お店でお菓子をおまけしてくれた人、いつも気さくで優しいご近所さん。

少なくとも私が知る限りでは優しい人や親切な人はたくさんいました。だから私は彼らの差別的な発言を聞くたびにその人たちが馬鹿にされているようで憤りを感じていました。でも、自分が同じように言われるのが怖くて何も言い返せなかったことと、非難の言葉の矛先が自分でなくてよかったと

安堵した自分にも同じくらい憤りを感じました。もちろん文化の違いや国民性の違い、環境の違いなど、国と国の差が埋まることはありません。反日運動などはもちろん、彼らがそう非難する理由があることは事実です。ですが、その出来事だけで中国に住む十四億人の人をひとくりにしないでほしいのです。

中国には反日運動を行い、暴動を起こす人がいます。しかし、その人たちと同じくらい優しい人がいることに気づいてほしいのです。これは中国に限った事ではありません。二〇二二年に始まったロシアのウクライナ侵攻、これによってロシアに大きな批判が集まりました。私もこの出来事は決して許されないことだと思います。ですが、ネット上でロシア人もろとも叩いている人を見かけると「それは違うのではないか」と思うのです。この侵攻を決定したこと、また、それを支持している人がいることは事実ですが、そこに住む人すべてを差別し、非難する理由にはならないと思います。つまり、私が言いたいことは、人間を国や人種、宗教などと言ったもので分類しないでほしいということです。

世界には国際的な問題がたくさんあり、敵対意識を持つ国も、お互いに苦しい歴史を持つ国もあるでしょう。それでも、私はそこに住む人たちを国籍、人種などといったフィルター

をかけずに「一人の人として」見たい。どこの国でも悪人もいれば善人もいます。どこでも同じです。優しい人や親切な人だって必ずいます。これはきつといろいろな場所を転々としているいろいろな人に関わってこなければ気づけなかったことです。だから私はもう自分の経験を恥じることは絶対にしません。もし、また外国人をひとくりにし、非難するような人に会った時は迷わず「それでもないよ」と言い返したいです。皆さんも一度複雑なフィルターを外して、世界中の人と「人として」向き合ってほしいと思います。そうすれば、誰もが偏見を捨て、一人ひとり人として向き合うことで国や人種を超えた交流が広がる時代が来るはずですよ。